

未来のまちづくりを、世界と語る。

発展途上国の行政官と富山の高校生が共創する「持続可能なまちづくり」
海外の専門家が見た富山市の魅力とは？『地域理解プログラム』

■日時：2025年8月27日（水）・28日（木）

■会場：富山市役所（富山市新桜町7-38）・富山県民会館（富山市新総曲輪4-18）等 富山市周辺

国際協力機構（理事長：田中明彦、本部所在地：東京都千代田区、以下：JICA）は、**2025年8月27日（水）・28日（木）の2日間にわたり、開発途上国の行政官であるJICA長期研修員が富山市を訪問する「地域理解プログラム」を実施いたします。**

JICAは開発途上国の人材育成の一環として、開発途上国の行政官を日本各地に招き、大学での就学・学位取得を支援する長期研修事業を実施しています。この事業の中で、日本の地域を訪問し、その地域の開発の歴史や都市課題への取り組みを学ぶ「地域理解プログラム」を実施してきました。



2024年12月 埼玉県の中学校見学の様子

今回は富山市に研修員を招き、「持続可能なまちづくり」をテーマに、研修員が「コンパクトシティ政策」の先進都市である富山市の取り組みを学びます。

28日（木）には、地元・富山国際大学附属高校の生徒と交流し、未来のまちづくりを共に考える『共学・共創プログラム』も実施いたします。これは、研修員が一方向的に日本の取り組みを学ぶだけでなく、未来を担う高校生が海外の専門家の視点を通じて自分たちの街の魅力や課題を再発見し、未来のまちづくりを共に考える取り組みです。

「まちづくり」の専門家であるJICA研修員（開発途上国の行政官）が、富山市の取り組みを専門的見地からどのように見るのか。また、その国際的な視点に触れた地元の高校生たちが、自らの街の未来をどう展望するのか。世代と国境を越えた意見交換の場に、ぜひご注目ください。

また、前日の27日（水）に行われる、富山市役所での講義や市内視察もご取材いただけます。

富山市職員、JICA案件担当者、JICA研修員（開発途上国の行政官）、富山国際大学附属高等学校の生徒への取材も可能です。ご多忙中と存じますが、万障お繰り合わせの上、ご取材賜りますようお願い申し上げます。

取材プログラム概要

① 2025年8月27日（水）13:30～17:30頃 ※お好きなタイミングでご取材いただけます

- 13:30～ 富山市役所訪問・ブリーフィング（コンパクトシティ政策について）
- 15:00～ 富山ライトレール乗車体験（公共交通の効率性と利便性を体験）
- 16:00～ 岩瀬地区の歴史的地区視察（伝統的町並みの保存とまちづくり）
- 17:30頃 順次解散

② 2025年8月28日（木）10:30～11:45 『共学・共創プログラム』@富山県民会館

- 10:30～ 富山のまちづくりの視点交換
・海外の専門家から見た「富山市のまちづくり」の印象と気づきを報告
・高校生から見た「富山市の魅力、好きなところ」を報告
- 11:00～ 対話・交流セッション
・市役所職員と高校生、研修員の質疑応答、コメント交換
- 11:45 記念撮影、終了

<取材申込フォーム>



取材申し込み方法

参加をご希望の方は下記取材申し込みフォームに必要事項をご記入の上、**8月25日(月) 12:00まで**にお申し込みをお願いいたします。

<URL> <https://forms.gle/vzMtAt8ZgdCoZ2sf8>

<本件に関するお問い合わせ先>

JICA PR事務局（(株)イニシャル内）担当：丸山・山下・遠山・三好
TEL：03-5572-7334 FAX：03-5572-6065 MAIL：jica_pr@vectorinc.co.jp

■各地のプログラム事例



北海道十勝地方：十勝農業、リーダーの系譜～受け継がれる開拓精神～
 十勝地域の特徴である農業、その発展の裏には強力なリーダーの存在があった。現代の地域農業を強力に牽引するリーダーによる言葉から紐解く。



岩手県西和賀町：岩手県沢内村の経験に学ぶ UHC の取り組み『誰も取り残さない村づくり～命を未来につなぐ地域保健』
 昭和 30 年代（1960 年代前半）に豪雪、貧困、多病の三悪に苦しめられてきた岩手県沢内村（現・西和賀町）が新しい村長の下で、日本で初めての乳児死亡ゼロなどの地域包括医療の実現を果たした。その日本のレガシーに迫る。



新潟県佐渡市：トキと共生する佐渡の里山と文化芸能

佐渡独自の歴史や、日本産トキの絶滅をきっかけとする生物多様性農業の推進を通じた環境保全と農業の両立への取り組み、そして島独自の文化を活かした地域創生について学ぶ。



神奈川県横浜市：日本の水道事業～横浜からの歩み

1859 年の横浜開港当時、わずか 100 戸ほどの一寒村であった横浜が、国内初の近代的な水道施設を敷設する。英国人技師を顧問に迎え、1885 年の建設着手から、1887 年の給水開始に至るまでの横浜水道の技術開発の歴史を学ぶ。



琵琶湖：琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓

日本最大の湖であり、関西の 1400 万人の人口を支える重要な水源である琵琶湖。水環境の開発（治水・疎水）のみならず、1970 年代後半の「石けん運動」に代表される環境保全や市民運動など、長きにわたる開発の歴史からの教訓を学ぶ。



広島県広島市：広島県の歴史と文化を学ぶ（世界遺産と観光振興）

第二次世界大戦の焼け野原から立ち上がった広島。希望、平和、そして再生のシンボルへと変貌を遂げた広島の歴史と文化を学ぶ。



福岡県北九州市：北九州市の公害対策史と環境政策

1901 年の官営八幡製鉄所の操業以来、日本の近代工業化に重要な役割を果たした北九州市。その後、戦後の高度成長期に深刻な公害に直面し、産官学民が一体となって克服した。これら歴史と経験を土台とした先進的な環境政策を学ぶ。

■プログラムの様子（一部抜粋）



2024年6月 佐渡島の生き物・田んぼ視察の様子



2024年12月 山梨県の水源林ボランティアの様子



2024年12月 埼玉県の中学校見学の様子